

「宮島」と「弥山」

2024年5月24日9時25分広島を目指して自宅を出発しました。常磐線勝田駅まで約50分で歩きました。5月末ですが気温は大変高く、出かける前に半袖のジャケットに着かえていましたが、それでも暑いのでゆっくりゆっくり歩きました。電車で旅行するのは久しぶりで、前回何時旅行したのか思い出せません。予め駅ねっとで切符を確保してあったので、その通りに移動しました。東京駅で新幹線に乗り換えですが、東京駅で乗り換えるのも初めてのようになります。その昔は上野駅がターミナル駅でそこから環状線に乗り換えて東京まで行きました。いろいろの事が便利になっています。東京駅についてまず驚いたことは外国人観光客であふれていたことです。新幹線の切符売り場は長い列ができていました。幸い私は切符を確保してあったので助かりました。昼が近かったので駅弁を買って電車に乗り込もうとしましたが、ここでも混雑していました。安くて人気のありそうな弁当は売り切れだったので一番高い鰻弁当を頼みましたが、支払いはスマホで済ませている方が大部分でした。特に外国の観光客はほとんどスマホ決済でした。わたくしはこれらの決済の準備をしてなかったのでクレジットカードで支払いました。

のぞみ号の座席は2列窓側だったことと、最後まで一人だったので、弁当を頂いたり、外を眺めたり快適な新幹線の旅でした。途中居眠りすることもなく、ずっと外の景色や工場住宅などの光景を楽しみました。富士山もほとんどが雲に隠れていましたが、頂上部を確認することができました(図1)。山頂の雪はまだ残っていました。幻の滝はまだ見られるのではないかなどと考えるうちに、あっという間に富士川鉄橋を渡りました。



図1 のぞみ号から富士山

のぞみ号の車両前方のスクリーンには通過駅が次々に表示されます。通過駅の表示の間には企業広告がありますが、通過する地域にある企業のものが多く勉強になりました。広島に近くなると、名物もみじ饅頭の新種の宣伝がありました。わたくしにとってはこれも大変参考になりました。この間も車窓には次々と住宅街や工場が続きます。これらのすべての住民が、仕事をして、買い物をして、税金も払っていることなどを考えると、日本の国力はやはりすごいと感じました。

広島駅に着いた後直ちに宿泊先のホテルを探しました。今回の旅行の主目的は姪の結婚式に参加することです。姪が厳島神社で結婚式を挙げることになりましたが、妻(牧子)は自分の弟の長女の結婚式でしたが、身体障害(歩行不自由)のため参加しないという。私は過去に厳島神社に行ったことが無かったので、ここの見学もかねて、積極的に参加表明していました。せっかく宮島まで行くので、滞在を一日延ばして弥山に登る計画も立てました。予め用意してもらったホテル(東横インスタジアム前)に向かいましたが、なかなか見つかりませんでした。広島駅が大規模改装中であったことも、方向感覚を定める上でも障害になりました。スマホのマップも使ってようやく目的地に着きました。名前の通り MAZDA スタジアムのすぐ近くでした。広島には東横インという名称のホテルがほかにも有って、これが迷った原因の一つでもありました。スタジアムで試合がなかったことも探すのに苦労した一因でした。

ホテルでチェックインした後、明日の結婚式場(ララチャンス広島迎賓館)を確認するために外出しました。結婚式場はホテル前の道路を 100 メートル程度進んだ対側にありました。なぜか看板は La Chance と La が一つしかありませんでした。ホテルに近いので、このホテルを選んでくれた理由がよくわかりました。ララチャンスの隣にはスタジアムがありました。この日は試合がなく静かな球場周辺でした。球場の外を一回り見学してホテルに戻りました。



図2 ラチャンス前



図3 MAZDA スタジアム

ホテルのエレベーターを出たところで成人(花嫁の父)さんに会い、私の部屋で、明日の結婚式の日程などを打合せしました。

その後再びホテルを出て、広島駅に向かいました。今度は線路(山陽新幹線)沿いに歩き、途中から歩行者用陸橋(ペDESTリアンデッキ)を歩きましたが、このデッキは駅の東側にある大きな電気店(エディオン蔦屋家電)のビルのところで途切れていました。その先は広島駅の開発工事現場でした。本来ならば駅に直結している陸橋が途中で切れているこ

とが、ホテルを探すのに苦労した原因だとわかりました。またこの道はカーブ道路とも呼ばれているようです。ホテルの近くのコンビニにはカーブの応援グッズが多数おいてありました。試合のある日は大勢のカーブファンが列を成して歩いている姿が想像できました。

駅のショッピングセンターで、名物のもみじ饅頭を多数購入し自宅に宅急便の手続きをしました(図4)。当初荷物をどこで送るかを心配し、考えていましたが、どのお店でも扱っていました。



図4 もみじ饅頭宅急便



図5 広島焼調理



図6 広島焼

お土産を確保するという大仕事を終わり、夕食を頂くことにしました。広島に来たら広島お好み焼きというイメージが強かったので、そのお店を探しました。お土産を買ったショッピングセンターの食事街に広島お好み焼き店がありました。ここでも大勢の外国人観光客が列を作っていたので、食事券を購入するまでにしばらくかかりました。外国人や日本の若者たちは皆スマホ決済でしたが、私は現金で券を購入して席に着き、それから焼き始めます。確かトッピングはそばかうどんか聞かれたような気がします。大きな皿に山盛りの広島焼をいただき満足しました。

ホテルに戻る前に帰りのJR切符を確保するため新幹線の発券センターに向かいました。ここでも多くの観光客(外国人が多い)が並んでおり、切符を購入するまでに1時間近くかかりました。3日後に茨城に帰る切符を手にしたのち、2日後に再び宮島に行くときの山陽本線のホームなどを確認しました。この時今まで並んで切符を買ったイメージが強かったので、宮島口までの切符400円を買ってしまいました。

ホテルに戻り、風呂に入ろうとしましたが、ベットウエアなどがありませんでした。案内を読むとこれらの品物を置いてある部屋(名称は忘れた)が記されていたので、そこに行って手に入れました。そういえば歯ブラシなどの洗面具もホテルフロント脇に置いてあり、必要な人は持っていくシステムになっていました。連泊の場合原則ルーム清掃ありません。

明日は7時30分に式場に集まる予定なので、風呂に入って早々休みました。

5月25日 am6:00にフロント脇の朝食会場に行きましたが、朝食は6:30からとのことでした。係の方がコーヒーならば飲めますよと言ってくださったので、コーヒーをカップに入れて部屋に戻りました。6:30から朝食で、多分大勢並ぶことを考えると着替えを済ませ

て食事をし、直接会場に行く方が安全と考えました。6:30分に着替えをして朝食会場に行くと、大勢の人が並んでいました。食事の提供が始まってからもビュッフェ方式で各人が皿におさめるのに時間がかかり自分の番が来るまで時間がかかりました。着替えを済ませてきたことは正解でした。

結婚式場に着くとすでにご親族の方は待合室におりました。三原家の待合室で成人さんから、皆様に引き合わせていただきましたが、私はこのような場が得意ではなく、また耳の聞こえが悪いこともあって、そうそうソファを離れて、館内を見学のため離席しました。その後かなり長い時間、メッセージなどの寄せ書きやその他の準備などがあった後、バスで宮島に向かいました。

宮島は初めてだったので、島に移動するのに時間がかかるのではないかなどと心配していましたが、待ち時間もなく二つのフェリー会社の船が頻繁に発着し、いつでも島に渡れました。



図7 宮島口旅客ターミナル



図8 宮島フェリーターミナル到着

フェリーターミナルから厳島神社まで新郎新婦は人力車に乗って記念写真を撮りながら、式参加者はこの様子を見ながら進みました。



図9 人力車で厳島神社へ



図10 御笠浜から大鳥居をバックに

厳島神社に着くと大勢の観光客が神社参拝のため並んでいましたが、私たちは別口から直に神社に入ることができました。控室に入って、親族の紹介や式進行上の注意などを受けたのちに、本殿で結婚式が厳かに行われました。式のすべては観光客も観ることができる

ので、大勢の人に見守られた式は素晴らしいものでした。



図 11 本殿(式場)手前が参拝(観光)ルートでここから式を見ることができる。

結婚式終了後、撮影会が結婚式場のスタッフによって行われました。通常宴会場で行われる、親族の写真等も厳島神社の廻廊で、長い時間をかけて行われました。撮影は国宝客神社(まろうどじんじゃ)と五重塔をバックに東廻廊上で行われました。写真撮影時も多く外国人観光客が、興味津々眺めていました。日本の結婚式の模様を見られるのは幸運なのだと思います。中には覚えてたの日本語で「ごっけこんおめでとうございます」と大きな声を発している集団もありました。



図 12 新婦家族



図 13 撮影の模様

バスで再び披露宴会場(ララシャンズ広島迎賓館)に戻り、ここで大宴会が開かれました。新型コロナウイルスの時代が続いたので、参加者が 100 数十人と多くこれだけ派手な宴会に参加したのは久しぶりです。大手の結婚式場だけあって、最新の映像技術を用いた演出と料理も素晴らしかったと思います。また新婦から参加者個人へのメッセージもついており、細かいところまで、参会者を満足させる良い企画でした。



図 14 新郎新婦挨拶



図 15 新郎新婦と新婦親族

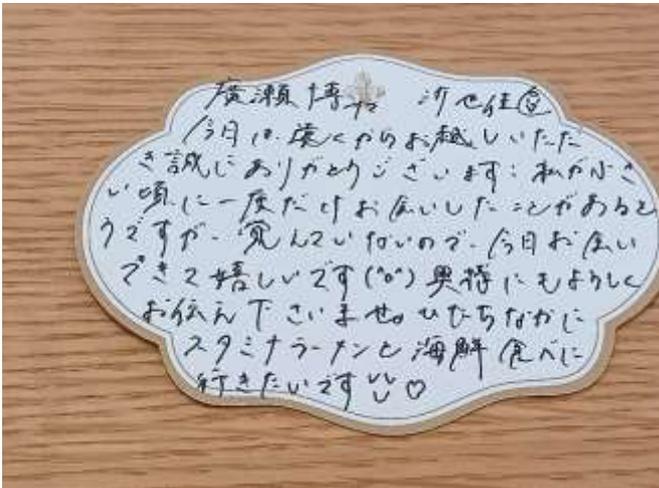


図 16 新婦沙也佳さんからのメッセージ



図 17 Menu

私は耳の聞こえが悪く補聴器をつけましたが、それでも大会場内の声はほとんど聞き取れませんでした。それでも皆様が楽しんで、祝福している様子がよくわかりました。長時間にわたる式と宴会だったので、疲れもあり、終宴後直ちにホテルに戻り休みました。

2024年5月26日再び宮島へ

今日はなるべく長い時間宮島を見学したかったために、ホテルの朝食も摂らずにチェックアウトし、あらかじめ確認してあった、カープロードを通り、広島駅に行きました。予め調査してあった、ハードキーが使えるコインロッカーに礼服バックと引き出物バックを預けて山陽本線の改札口に向かいました。切符もあらかじめ購入してあったので問題なく列車に乗れると思いましたが、改札を通れませんでした。近場の切符は当日有効券でした。予め2日前に買ったことは世間知らずの良い経験となりました。切符を買い直してホ

ームに出ると昔ながらの蕎麦屋の看板が目に入りました。次の列車まで少し時間があつたので、かき揚げそばを頂きました。ここでもスマホ決済が主流でしたが、現金も使えました。昔ながらの蕎麦屋という感じでわたくしにはピッタリでした。

その後何の問題もなく宮島口に着き、何の問題もなく宮島に着きました。宮島フェリーターミナル広場では、昨日ゆっくり見られなかった世界文化遺産記念碑、日本三景碑、平清盛像などを見て回りました。



図 18 平清盛像



図 19 日本三景碑



図 20 世界文化遺産記念碑

次に昨日は回れなかった豊国神社に行きました。今は豊臣秀吉を祀る神社ですが、元は豊臣秀吉が戦没将兵の慰霊のため安国寺恵瓊に命じて作らせたもののようです。完成前に秀吉が亡くなり未完成のままになっていましたが、明治の神仏分離によって仏像は大願寺にうつされここは秀吉を祀る神社となったようです。畳 857 枚分の広さがあるので千畳閣の別名があります。この神社は厳島神社の末社となっているようです。各地にある豊国神社とはまた違うようです。



図 21 千畳閣説明板



図 22 入場時間と入場料



図 23 豊臣秀吉の祭壇か



図 24 千畳閣さすが広い

千畳閣を出るときに、係の女性に弥山に行く道を聞いたところ、親切に教えてくれました。ケーブルカーの始発時間なども時刻表を見て、まだ早いですよと教えてくれました。

次に近くの五重塔を見学しました。五重塔は本来仏舎利の遺骨を祀る場所だと思っていましたが、この塔はそうではないようです。かつて祀られていた釈迦如来像は神仏分離により大願寺に移されていると言います。それでは何の神を祀っているのかは書いてありません。ここも巖島神社の末社に当たるのでしょうか。



図 25 五重塔表示板



図 26 五重塔

弥山に登るケーブルカーの始発にはまだ時間があったので、巖島神社の西側の海辺を回りました。最初に三翁神社(図 27)の看板が目にはいりました。ここも巖島神社の摂社ですが観光マップなどには表示がありませんでした。さらに進むと大きな案内標識が立っていました(図 28)。案内標識の先にある大願寺(図 29-31)に行きました。大願寺は高野山真言宗の寺で創建年代は明らかではありませんが、平安時代初期に空海によって創建されたともいわれています。古くから巖島神社との関係が深く、かつては巖島神社の修理・造営を担っていたようです。神仏分離令により巖島神社より巖島弁財天が、千畳閣本尊だった釈迦如来像その他多くの仏像が安置されているようです。弁財天の祀られている護摩堂(図 31)では撮影禁止の札が立っていました。

次に、巖島神社宝物館に入ってみました。ここは有料で写真撮影も禁止でした。入館前にスマフォはカバンに入れるように案内がありました。中には国宝の展示物がいくつかありました。宝物館の説明(図 33)によると、この建物は、宝物を地震や火災から守るために、コンクリートに漆が塗られた初めてのものです。設計は、神社建築の専門家、大江新太郎です。また建物自体が登録有形文化財に指定されています。また玄関横には巖島神社大鳥居の旧根本材が展示されていました。



図 27 三翁神社 看板



図 28 観光案内標識



図 29 大願寺三門



図 30 大願寺本堂



図 31 大願寺 護摩堂



図 32 巖島神社宝物館

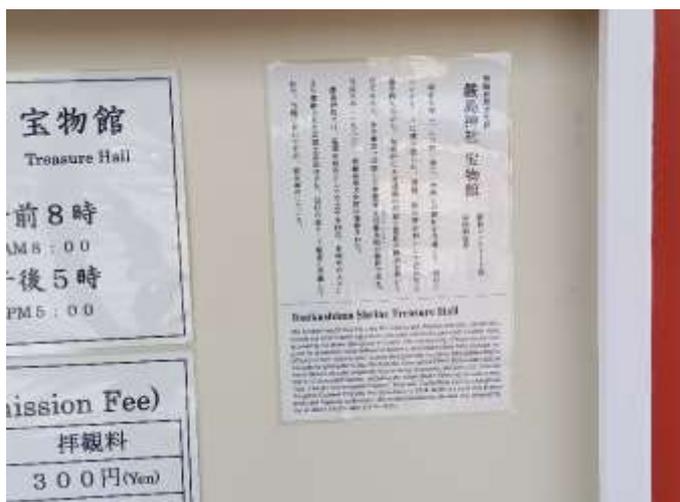


図 33 厳島神社宝物館 案内



図 34 大鳥居の根本材



図 35 大鳥居根本材説明板

厳島神社宝物館を見学したところケーブルカーの運行時間が近づいてきたので、近くの多宝塔にはいかないで、紅葉谷公園の方に引き返しました。戻るときにすぐ近くにあった金刀比羅神社(図 36,37)が目に入りました。通りの一角にあるとても小さな神社ですが、ここも厳島神社の末社になっているようです。



図 36 金刀比羅神社



図 37 金刀比羅神社 説明板

弥山へのルートは何回も確認していたので、問題なく行くことができました。最初に大きな案内ゲート(図 38)があったことも助かりました。ロープウェイ駅まで送迎バスの案内もありましたが、紅葉谷を歩きたかったなので、これは使用しませんでした。紅葉谷はきれいな公園で、清流が流れていました。秋の紅葉時期には確かにきれいになるだろうと思いつつ進むとケーブルカー駅に着きました。思ったより近い距離でした。



図 38 ロープウェイ案内



図 39 紅葉谷公園内の清流

宮島ロープウェイで往復乗車券を買いました。ここでも私は現金で購入しました。券を買ってゲートに進む途中にサービス(無料)のうちわがおいてあり、これを持ってケーブルカーに乗りました。ここ数日大変暑い日が続いていたので、このサービスは大変助かりまし

た。宮島ロープウェイは2段に分かれていて、紅葉谷駅から榎谷(かやたに)駅までは循環式ロープウェイで、8名乗りの Gondola 形式でした。ここでも外国人観光客ご夫婦(と思われる)とご一緒でした。榎谷駅から獅子岩駅までは交走式ロープウェイ(30人乗り)で約4分でした。ロープウェイからの眺めも素晴らしいものでした。



図 40 乗車券



図 41 無料うちわ



図 42 榎谷駅で乗り換え

榎谷駅で水分を補給し、弥山山頂を目指しました。登山案内(図 44)も道自体(図 45)もよく整備されており平の部分はコンクリートで、坂の部分は階段状に整備されており、革靴でも気になることはなく登ることができました。山なのに世界文化遺産に認定されているのは、富士山と似ているところがあります。



図 43 弥山案内図



図 44 案内標識



図 45 道は良く整備されている

獅子岩駅を出発してから 30 分弱で弥山本堂(図 46)と霊火堂(図 47)に着きました。これらの施設は弘法大師が修行したと伝わる場所に建てられています。弥山本堂には虚空蔵菩薩が祀られていますが、中は良く見えませんでした。看板などの文字は薄れて読むことができませんでした。弥山本堂の広場の反対側に霊火堂がありました。不消霊火堂とは別に中では火がたかれており、煙で長時間中にいることはできませんでした。堂の中心に確認できた「消えずの火」と思われる火を写真に撮って早々堂を出ました。



図 46 弥山本堂



図 47 霊火堂



図 48 霊火堂説明板



図 49 これが「消えずの火」か

霊火堂の隣に札所があり、そこで金運・長寿の縁起亀(お札)を求めました(図 50)お札には大本山大聖院のしるしがありました。この施設は二つとも大聖院の管理施設と思われます。また霊火堂の右側、弥山頂上に続く道沿いに三鬼大権現祈禱申込所と書いてある看板を取り付けてある社がありました。ここも弘法大師空海の修行にまつわる施設で大本山大聖院の管轄する施設と思われます。



図 50 縁起亀



図 51 三鬼大権現

三鬼大権現の前の道をしばらく進むと大きな石の塊が現れました。大きな石のトンネルを潜り抜ける場所等奇岩が集まっています。茨城県の筑波山に弁慶の七戻りという今にも巨石が落ちてきそうな登山道がありますが、これに似ていると思いました。



図 52 くぐり岩



図 53 奇岩

奇岩を潜り抜けると弥山頂上(図 54)です。頂上部は少しの広場ようになっており、その

一角に頂上ポールがあります。宮島 弥山山頂 五三五米 と書いてありました。このポールの横で自撮りしました(図 55)。時間は丁度 11 時だったので獅子岩駅から一時間かかったことになります。筑波山のような急坂もなくハイキング気分でした。



図 54 弥山頂上広場



図 55 弥山頂上ポール横で自撮り

頂上広場の反対側に弥山頂上展望台がありました。この展望台は三分一博志(さんぶいちひろし)設計のモダンな建物でした(図 56)。一階は公衆トイレ、二階は座るスペース、三階は立って景色を楽しむ場となっていました(図 57)。実際この建物の三階からの景色は素晴らしいものでした(図 58,59)。



図 56 弥山 頂上展望台



図 57 頂上展望台からの眺望



図 58 頂上展望台から



図 59 頂上展望台から

目的の弥山頂上に到達したので、素早く引き返しました。獅子岩駅の近くに獅子岩展望台の案内があったので、ここに立ち寄りました(図 60)。ここからも瀬戸内海がきれいに見えました。



図 60 獅子岩展望台から

再び宮島ロープウェイで紅葉谷駅に戻り、さらに紅葉谷公園を散策しながら、近くにあった神社に立ち寄ったりしながら宮島フェリーターミナルに着きました。



図 61 四之宮神社

フェリーターミナルでの買い物もしないで、13時には帰りのフェリーに乗りました。その後再び山陽本線で広島駅に戻りました。ホテル(アパ広島駅前)にチェックインするには少し早かったので広島駅構内で再びお土産(もみじ饅頭)を追加購入し、これを昨日の結婚式の引き出物バックに入れてホテルに向かいました。

ホテルのフロントはチェックインの長い行列ができていました。大部分は外国人観光客と思われます。私はアパの会員になっていて、PCで手続きしたときに、チェックインはチェックイン機にカードを挿入すれば自動で、できると認識していたので、案内のお兄さんに尋ねると、列に並んでくださいと言われました。しばらくしてじぶんの番になったので名前を言って予約を確かめましたが、出てきません。予約確認をプリントアウトしてあったのでそれを見せると、なんと、ホテルを間違えていました。予約したホテルは「アパホテル広島駅前」間違えたホテルは「アパホテル広島駅前大橋」でした。ホテルのフロント係の人は申し訳なさそうに、川の淵まで出て目的のホテルを教えてくださいました。予約し

たホテルは駅前の猿猴川(えんこうがわ)を渡らずに京橋川の交点近くにありました。こちらのホテルのフロントは狭く並んでいる人もいませんでした。

チェックイン後部屋で少し休んだ後、夕食のため再び駅方向に向かいました。いろいろ探し回った末に、広島駅のセブンイレブンで食材、ビール、もみじ饅頭などを購入しホテルの部屋に戻りました。セブンイレブンでもスマホ決済が多く現金が使える清算口は僅かでした。

その日は疲れたこともあり、食事後に早々と休みました。

次の日は雨模様でした。ホテルに朝食はついていましたが、昨日購入した食材が余っていたので、これをいただきました。チェックアウトするときフロントで「理論 近現代史学Ⅷ,Ⅸ」という本を2冊買いました。藤誠志(APAGROUP 代表:元谷外志雄のペンネーム)のエッセイ集で、部屋にあった本を少し読んだ結果、買えるものなら買って自宅でゆっくり読みたいと思って、フロントに電話しました。

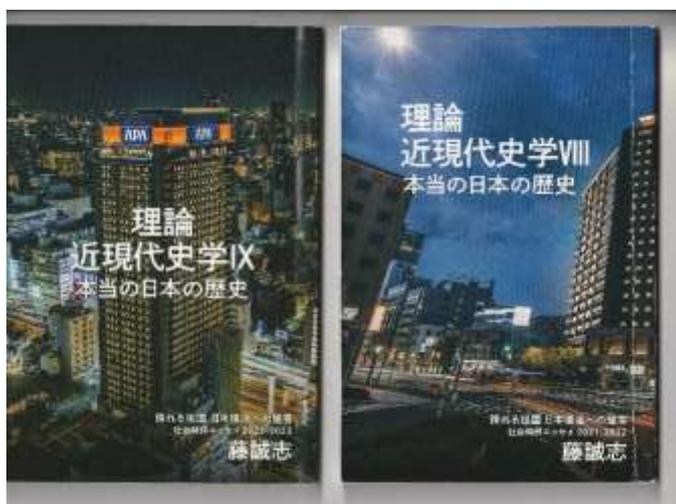


図 62 APA ホテルで購入した本

この日の新幹線は11時前ののぞみを予約してありましたが、雨が降っており、見学するところも思い当たらなかったため、最速で帰えられる切符に変更しました。この時間切符売り場の人は少なく、短時間で変更できましたが窓側の席はとれませんでした。

広島発 9.05 東京 12 時 35 分 勝田着 14 時 12 分 自宅着 15 時 05 分でした。自宅について宅急便の確認をしたところまだ着荷していませんでした。よく荷札を見ると着荷は5月28日になっていました。もみじ饅頭はテニス3団体、テニス個人4人と妻の関係者にさばきました。

7月になって広島の結婚式場から親族の写真が届きました。これのコピーを図63に示します。



図 63 :親族写真(厳島神社東廻廊 背景は客神社と五重塔)2024年5月25日

原稿完 2024年7月5日